

単元名： 『表現力向上 プルゾンヒロコ With B』(全国学力・学習状況調査問題から)

【生徒の実態】

〈学力・学習状況調査より〉

平成29年度埼玉県学力・学習状況調査の結果を見ると、本校の現2年生は、評価の観点別正答率では「書く能力」、問題形式別平均正答率では「記述式」だけが県平均を下回っており、十分な力がついていないことがわかった。特に「資料を根拠にしながら、自分の考えを明確に書く」という記述式の設問においては無解答の生徒が9パーセント近くいた。対象学年は異なるが、平成29年度全国学力・学習状況調査結果にも同じ傾向が見られた。特に記述式の設問が多い国語B問題で問われる学力の育成については、改善していく必要がある。出題の趣旨では「表現に注意しながら文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直していく」の項目で課題が見られた。

〈定期テストより〉

1学期中間テスト・・・文章を要約する（指定された文字数に）問題  
9点満点で平均3.1点 無解答者数 42名

1学期期末テスト・・・資料を根拠にしながら、自分の考えを書く問題  
13点満点で平均6.4点 無解答者数 20名

生徒は7月に実施した職業体験など、学校生活の中でお礼の手紙や感想文を書くことに関しては、数多く経験しており、形式的なスタイルとして書き方を習得している。授業終了時に記入する自己評価カードの感想欄の記述などもよく書けている。一方、様々な条件に合わせて、自分の考えや思いを正しくかつ豊かな表現で伝えることに関しては躊躇する姿が見られる。どうしても画一的な表現となり、じっくりと深く考えて文章にしていくことに苦手意識があるようだ。しかし生徒は、誰もが読みやすい文章を書きたい、人を納得させる文章を書きたいという思いをもっている。「書くこと」に対する意欲を高めるとともに、「どう書くか」という具体的視点をもって、書く活動に取り組みせることで「書くこと」の技能を着実に身に付けさせていきたい。

【単元のゴール】

○課題や条件に応じて、「どう書くか」という具体的視点をもって、書くことができる。

【単元の目標】

◆資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書くことができる。

【パフォーマンス課題】

既習事項を活用して、1年生に向けて、『平家物語』の広告カードを作成する。  
既習事項を活用して、初めての人への道案内として、地図をもとに道順を説明する原稿を作成する。  
既習事項を活用して、身近な話題を取り上げた新聞の投書に対して、自分の意見を書く。

【言語活動】

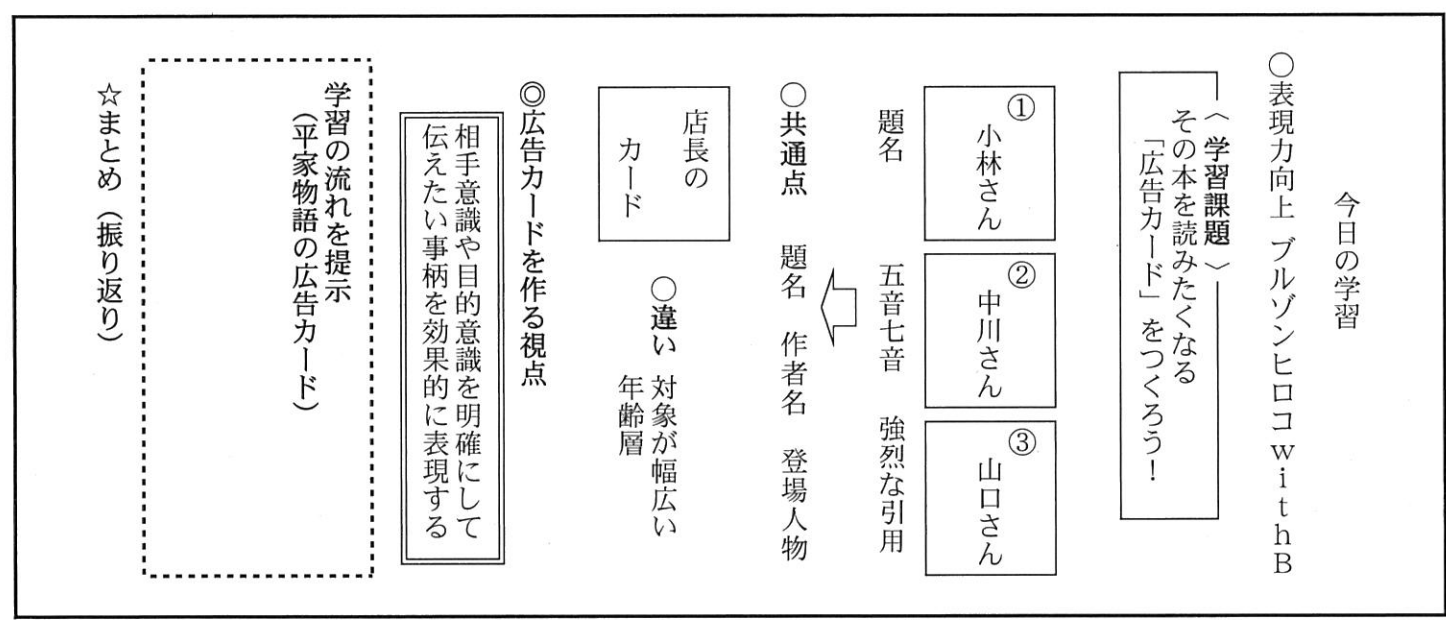
- ロールプレイを通して、問題を解きながら、よい広告カードの条件を考える。
- 聞き手に、よりわかりやすく伝えるために資料の活用の仕方を考え、スピーチ原稿を作成する。
- 二人の対談から、それぞれの意見を踏まえた上で、自分の考えを書く。更に新聞の投書に対する自分の意見を書く。

時間	学習課題	学習内容	授業後の生徒の姿
1 ～ 2	◎「その本が読みたくなる広告カードをつくろう！」  ○ 相手意識や目的意識から、表現の特徴や工夫を導き出すことができる。	○全国学力・学習状況調査のB問題の『複数の資料を比較しながら読む（広告カード）』を活用。  ・ロールプレイを通して、問題を解きながら、よい広告カードの条件を考えさせる。 ・既習事項を活用して、1年生に向けて、『平家物語』の広告カードを作成する。	・複数資料を比較しながら読み、それぞれの特徴をとらえることができる力。【読】 ・相手を想定して、伝えるべき内容を選び、効果的に伝えるように書くことができる力。【書】
3 ～ 4	◎「分かりやすいスピーチ原稿を書こう！」  ○相手の反応を踏まえて、事実や事柄が伝わるように、工夫して書くことができる。	○全国学力・学習状況調査のB問題の『目的に応じて資料を効果的に活用して話す』を活用。  ・聞き手に、よりわかりやすく伝えるために資料をどのように活用するかを考えさせる。 ・既習事項を活用して、スピーチ原稿を作成する。	・目的に応じて資料を効果的に活用して話すことができる力。【話】 ・事実や事柄、意見が相手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、描写を工夫して書くことができる力。【書】
5 ～ 6	◎「私の考える『言葉の使い方』を聞いてください！」  ○集めた材料を整理して文章を構成することができる。	○全国学力・学習状況調査のB問題の『対談から意見を読み取る』を活用。  ・二人の対談から、それぞれの意見を読み取り、構成や展開を整理することができる。 ・意見を踏まえた上で、自分の考えを書く。	・対談の論理的な構成や展開などに注意して、それぞれの意見を読み取ることができる力。【読】 ・話の構成展開に注意しながら、自分の考えをわかりやすく伝えるように書くことができる力。【書】
7	◎全国学力・学習状況調査のB問題に挑戦！  先輩を超えよう！ 自分を超えよう！  ○結果を振り返り、自分の課題を確認することができる。 ○課題を解決するための学習方法を考えることができる。	○3年生が取り組んだ全国学力・学習状況調査のB問題を実際に解いてみる。  ・今まで学習してきた内容を生かして（既習事項の利用）問題に臨むことができたか、解くことができたかを意識させる。 ・自分が書いたものを検証する。	・既習事項を活用して、問題に対応することができる。【読・書】 ・自分の書いたものを客観的に読み直し、分析し、新たな課題を見つけることができる。

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数資料を比較しながら読み、それぞれの特徴をとらえることができる。</li> <li>・一つの資料に対して正反対の評価ができることを知ることで、相手や目的の意識をもって表現することの大切さに気づくことができる。</li> <li>・相手を想定して、伝えるべき内容を選び、効果的に伝わるように書くことができる。</li> </ul>
-------	---

<p>前時の概要</p> <p>第1時のため、なし。</p>
--------------------------------

<p>主体的・対話的で深い学びに向けて</p> <p>主体的・対話的な学びに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書店の広告カードに係る体験のロールプレイを通して、良い広告カードについてとらえることができる。</li> <li>・複数の資料を比較して、表現の仕方の特徴を読み取り、広告カードに必須な情報を一般化して考えることができる。</li> <li>・教材について、別の視点からとらえると新たな考え方ができる。</li> <li>・広告カードを作成する上でポイントになることを考え、視点によって評価が変わることについて考察する。</li> </ul> <p>深い学びに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の既習事項を活用して、中学1年生が『平家物語』を読みたくなるような広告カードを作成する。</li> <li>・相互鑑賞、相互評価を通して、より良い広告カードについて見いだす。</li> </ul>
---



<p>今後の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査のB問題を活用しながら、読むこと・話すこと・書くことの力を身に付けていく。</li> <li>・既習事項を活用できる問題を定期テストに取り入れて、確実な力としていく。</li> </ul>
--

学習活動	学習内容	指導上の留意点
1 本時の学習の見通しをもつ 〈学習課題〉 その本を読みたくなる「広告カード」をつくろう!		<ul style="list-style-type: none"> <li>・書店で使われている広告カードの様子について投影し、教材のイメージを具体化させる</li> </ul>
2 教材について把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の教材や学習に対する興味や関心を喚起すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面や役割を示し、生活場面を想定した言語活動とさせる</li> </ul>
(1) 書店の広告カードに係る体験等を紹介する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書店に職場体験に来ている3人の中学生と店長さんが、広告カードについて話している場面のロールプレイ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの台本は、全員に配布し、読むことで内容を把握できるようにする。</li> </ul>
(2) ロールプレイを通して、よい広告カードについてとらえる。 〔読み取る+考える〕	<p>押さえる表現</p> <p>【小林さんのカード】・題名がすぐに目にとびこんでくる 【中川さんのカード】・コピーに…七音や五音は日本人の心にしっくりくるリズム… 【山口さんのカード】・本文中の強烈な一文を引用して… 《共通点》・答えの例「本の題名」(一般化された言葉) 《紹介されたカードとの違い》・君たちのカードに加えてほしい視点 ・君たちに作成を頼んだ本主、いろいろなお客様に…</p> <p>押さえ方</p> <p>☆複数の資料を比較して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の仕方の特徴を読み取ること</li> <li>・広告カードに必須な情報を一般化すること</li> <li>・資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にすること</li> <li>・伝えたい事柄を明確にして書くこと</li> </ul> <p>〈導き出したい答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カード①が小林さん、カード②が中川さん、カード③が山口さんのものである。</li> <li>・作者名、登場人物、本の内容等</li> <li>一固有名詞や具体的内容は不可</li> <li>・(例)三人が作った広告カードは、対象者が中学生であるのに対して、店長さんが紹介してくれた広告カードは、中学生に限らず幅広い年齢層の読者を対象としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つ目の質問については、答えにくそうな生徒に対しては、選択肢を示す。</li> <li>・三つの質問に対する答えを確認したところで、これらが全国学力・学習状況調査で出題された問題で、正答率が低く、無解答率が高かった問題であったことを伝える</li> <li>・特に三つ目の質問は全国平均で、正答率が42.6%、無解答率が12.4%で、最も難しい問題であったことを伝え、なぜ正答率が低く、無解答率が高いのかを考えさせる。</li> <li>・全国的な状況との関係から、各自の学習を見直す一つの契機とさせたい。</li> </ul>
(3) よい広告カードに関する質問に答える。		
3 教材について、別の視点から把握し直す	<p>店長さんの紹介したカードより、中学生のカードの方が優れている面もあると考えられます。それは、どういうところでしょうか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の広いことと狭いことは、それぞれよさとなること</li> <li>・伝えたい事柄を明確にして書くこと</li> </ul> <p>〈導き出したい答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(例)対象を中学生にしぼっているから、中学生にとっては、三人が作った広告カードの方が分かりやすい。</li> </ul>	
4 既習事項を活用して「平家物語」の広告カードを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手意識や目的意識を明確にして書くことの重要性</li> <li>・視点によって評価が変わることがあること</li> </ul> <p>☆既習の例文を参考にして書くこと</p> <p>・対象を明確にして書くこと</p> <p>・キャッチコピーの工夫(リズム、倒置法・体言止め等の修辞、言葉の選び方等)</p> <p>・本の内容、あらすじ、引用・レイアウト・書名・作者名</p>	<p>※短時間で、集中して取り組ませるために、生徒の実態を踏まえ、カードのどの部分に、どのように取り組ませるかを割り振る。</p>
(1) 各自のパーツを書く (2) 同じパーツに取り組んだ生徒どうして相互鑑賞・相互評価する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい作品を紹介するとともに、よさを分析させる。</li> </ul>
5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手意識や目的意識から、表現の特徴や工夫が導き出されていること</li> <li>○表現の効果や伝わりやすさなどの評価は、相手や目的によって異なること</li> </ul>	